
空の彼方

藍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空の彼方

【Nコード】

N8805A

【作者名】

藍

【あらすじ】

私は大切な人を失った。そんな私の前に現れたのは――！！

彼は空へ

私は大切な人を失った

幼馴染で、家が近くて、そして

私の大好きだった人

病気だった

詳しいことなんて分からない、けどそこに残った事実

彼は死んでしまった

「ひ、ひろ・・・きつ・・・!!」

隣で美沙の嗚咽が聞こえる

涙さえ、私には流れなかった

“非情な女”・・・だろうか

普段なら使わない言葉を使って、自分には合わないなあと笑ってみる

笑えない

彼のいない世界で笑えるわけなどなかった

それはただの空虚な笑み

「蓮・・・?」

ふいに名前を呼ばれて、振り返る

「そんな顔して笑わないでっ・・・!!」

そういつて、美沙は私に抱きつく

ぬくもりが心地よかった

「博樹の・・・ぶんまで・・・生きようね・・・私達」
何を言っているのだろう博樹のいない世界では生きる意味もないのに

「私が、いるからっ・・・」

私は博樹がいい

博樹がいればそれだけで

なのにな

べつとのうえでしんでいる

「なんで・・・？」

「え？」

「なんで、博樹が死ななきやいけなかったの・・・？」
私の目から落ちる涙は美沙の頬に伝う

「なんで・・・なんでなのよおお！！！」

そのあとのことはあまり覚えていない
ただ、美沙を突き飛ばして、取り押さえられたところしか

『俺の名前、藤崎博樹っていうんだ。これからよろしく』
『よろしく・・・お願いします・・・』

あれは幼稚園入学式のとき隣にいたのが博樹

『おまえの名前は？』

『高原・・・蓮』

屈託のない笑顔で笑って、私を連れまわして

母親しかいなかった私の遊び相手になってくれた
小学校でもそれは変わらず、中学生になって

友達からいろいろ言われたりもしたけど仲のよかった私達
家が近かったのも幸いしたのだろう

そして、そして高校になつてはじめて好きだと意識した
毎日がまぶしくて、楽しくて

もう、戻れない

ねえ、またあの顔で笑つてよ、博樹

「蓮・・・」

「美沙・・・？」

「うん、蓮、病室で倒れてそれで」

博樹が寝ていたベッド

真っ白なシーツ

空はまだ青く澄みわたっていた

「ね、美沙・・・」

「なに？」

「博樹は、空にいつちやたんだね」

自分の羽で空を飛びたいといっていた彼

こんなに早く夢が叶っちゃうなんて、ね？

静かに一滴涙がこぼれた

それが合図で、とめどなく涙は溢れ続けて

大声を上げて泣いた

美沙も一緒に泣いた

二人で、たくさん泣いて

もう涙も出ないほど泣いて

でも、もう博樹がいなくて考えるとまた涙がでて泣きつかれて眠るまでずっとそれ続けていた

彼は空へ（後書き）

はじめまして藍です

はじめての投稿でびくびくしています

タイトルが決まらない・・・名前も決まらない・・・

文章もぜんぜん・・・短い・・・

へんなところがあったらどうぞ言ってください

まだ始まったばかりです

ブログみたいなものかな？

次で話ができるはずです

いつになるやら・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8805a/>

空の彼方

2011年1月16日09時44分発行